

マイライン廃止後における他事業者の顧客接点の確保に向けた方策

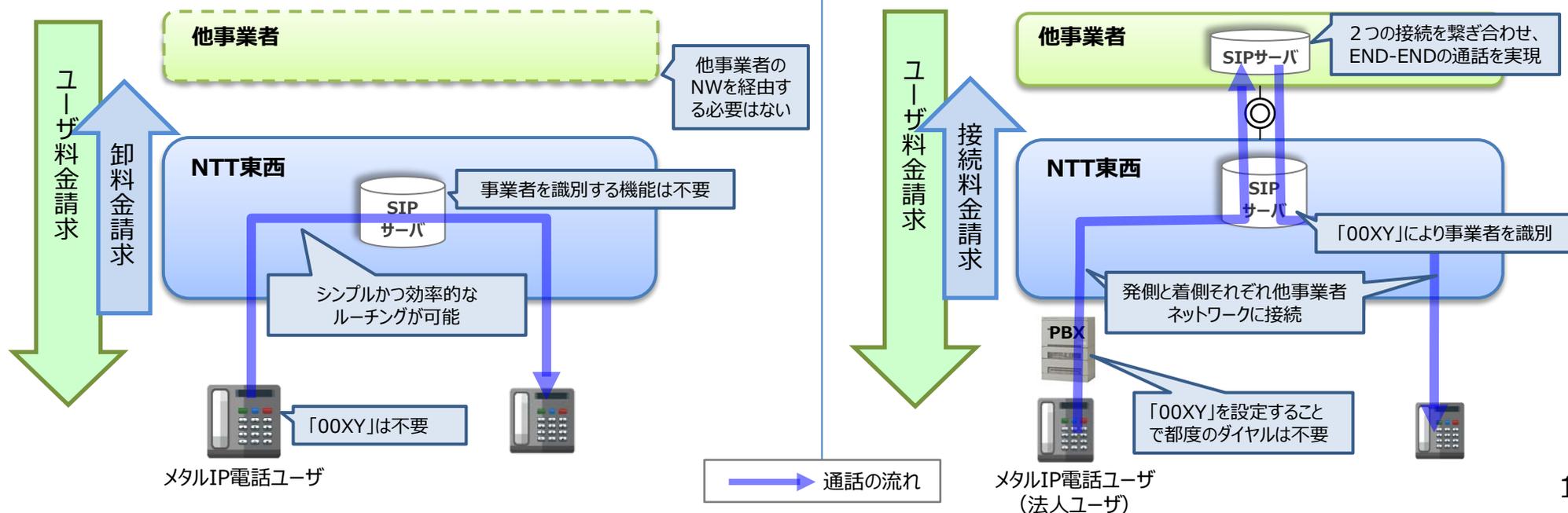
- 全国一律通話料が主流のIP電話で、細分化された距離区分ごとに事前登録を争うマイラインは不要（別紙参照）
NTT東西が全国一律料金とするにもかかわらず、距離区分ごとのマイライン選択を残すことは利用者の混乱を招く。
- 既存マイラインユーザとのタッチポイントの観点から、事業者から要望があれば、「メタルIP電話の通話サービス卸」を提供する考え
なお、法人ユーザ向けには、事業者の付加サービス実現のために提供する「00XYルーチング機能」を、一般通話の事業者選択に活用することも可能

メタルIP電話の通話サービス卸

- ・00XYをダイヤルすることなく、NTT東西と同様に一般通話を他事業者が自社サービス・料金として提供可能
- ・NTT東西のネットワークで事業者を識別する機能は不要。他事業者のネットワークを経由する必要もなく、シンプルかつ効率的な提供形態
- ・NTT東西と他事業者の間の卸料金は、NTT東西の全国一律の小売料金 - α で設定

00XYルーチング機能の活用

- ・通話毎にユーザが「00XY」をダイヤルして事業者を選択
ただし、PBXやビジネスホンに予め設定することにより、通話毎の「00XY」のダイヤルは不要とすることも可能
- ・他事業者が発側と着側の2つの通話を繋ぎ合わせ、END-ENDの通話を実現するため、発着以外に他事業者のネットワークを必ず経由
- ・NTT東西と他事業者の間はNTT東西が設定する接続料で取引

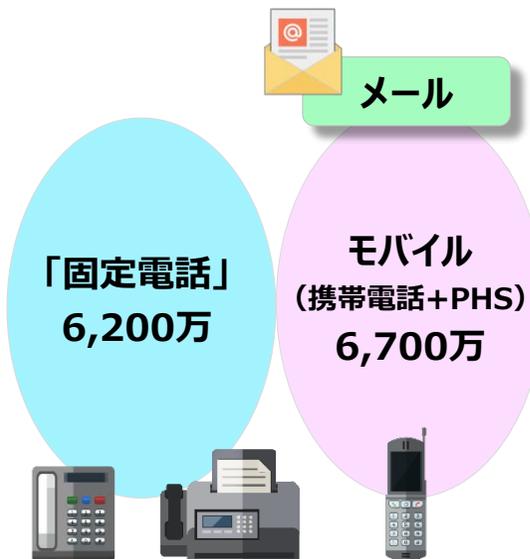


【別紙】

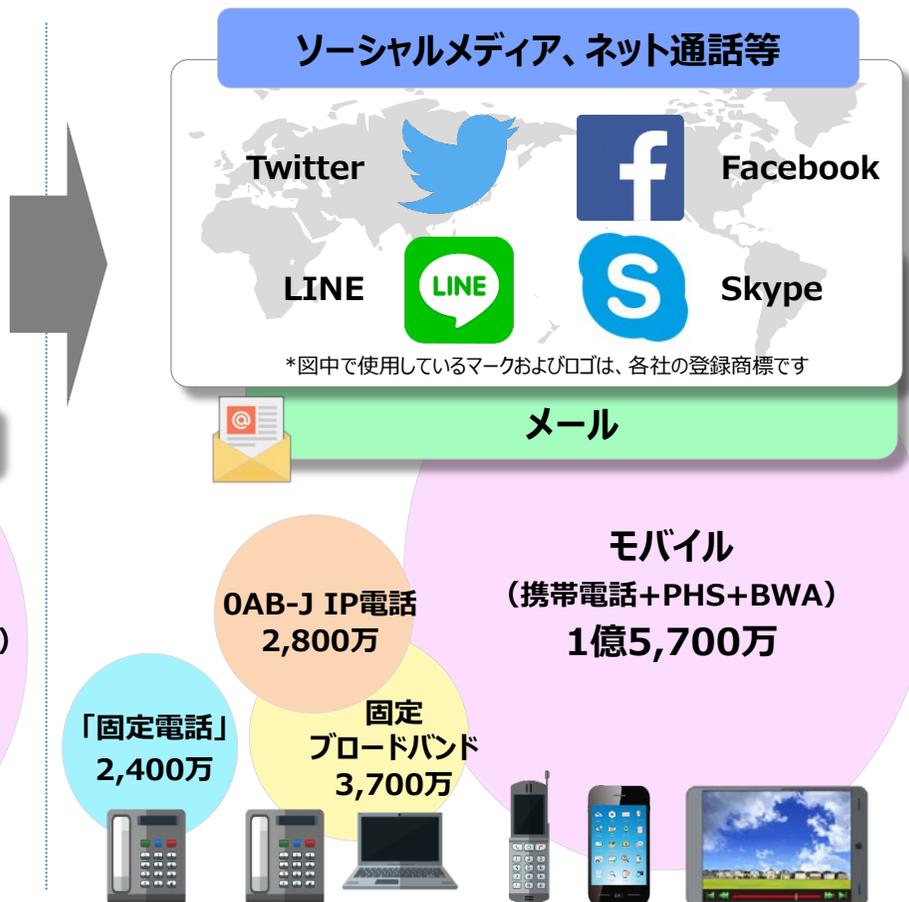
音声通信を取り巻く環境変化

- モバイル・ブロードバンドの進展により、コミュニケーション手段が多様化（ソーシャルメディアの急速な普及等）し、「固定電話」の利用は大きく減少

2000年度末



2014年度末



1日あたりの平均利用時間
(2014年度・平日)



競争環境の変化

- 現に各社は自らネットワークを構築して独自にサービスを提供しており、音声サービスを利用するお客様は、「固定電話」だけでなく、IP電話や携帯電話等も含め、様々なサービスの中から自らのニーズに合ったサービスを選択
(固定系の中だけで見ても、既にIP電話の契約数の方が「固定電話」よりも上回っている状況)
- 今後更に、固定も移動もIP網で多様なサービスが提供される時代において、固定の中の一部に過ぎないメタルIP電話に特化した競争を導入する必要があるとは考えられない。

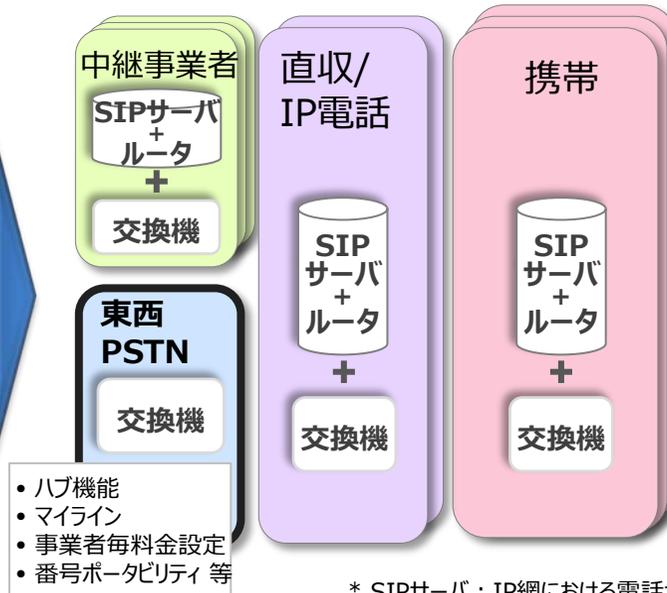
「固定電話」中心の時代

各社は東西PSTNの機能を用いてサービスを提供



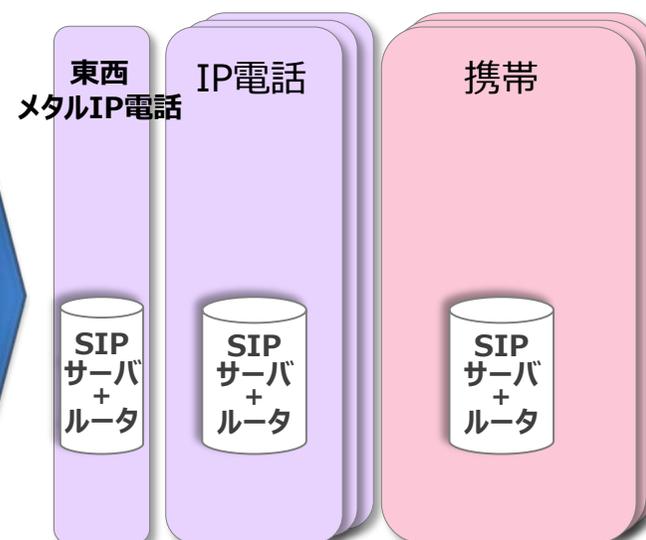
現在

携帯電話に加え、直収電話/IP電話等、サービスが多様化



IP網の時代

各社は自らネットワークを構築して独自にサービスをシンプルに提供



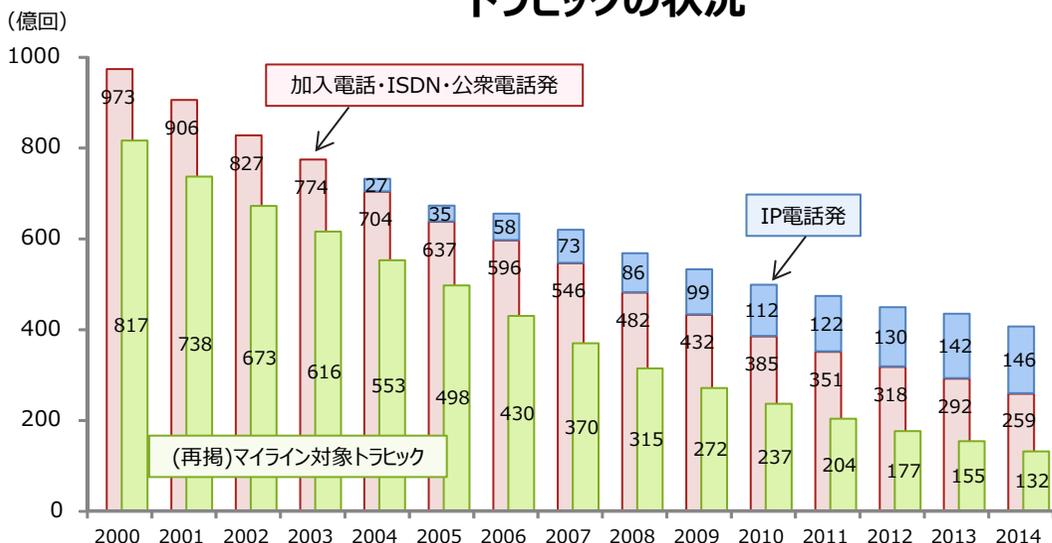
* SIPサーバ：IP網における電話サービスの管理・制御を行うサーバ（Session Initiation Protocol）

マイライン機能

■ 「固定電話」の需要は大きく減少しており、以下の観点から、移行後のIP網に「マイライン機能」を具備しない考え

- ・ 各事業者は自らIP網を構築し、アクセスからネットワークまでトータルでIP電話サービスを提供しており、固定電話市場は直収／IP電話の間の競争に移行している。
- ・ 全国一律通話料が主流のIP電話で、細分化された距離区分ごとに事前登録を争うマイライン競争はなじまない。
- ・ 他事業者を選択したいというお客様ニーズに対しては、00XY番号ルーティングによる事業者選択は引き続き利用可能であり、さらに、事業者から要望があればメタルIP電話の通話サービスの卸提供も検討する考え

トラヒックの状況



通話料金

現行のマイライン登録区分・料金

マイライン登録区分	通話料金 (平日昼間・3分通話した場合(税抜))
市内	8.5円
県内市外	20円～40円 (距離段階別)
県間	20円～80円 (距離段階別)

IP網へ移行後

通話料金
全国一律 (距離区分なし)

(出典) 総務省「通信量から見た我が国の通信利用状況」
NTT東西「網使用料(優先接続機能)」算定根拠資料

※ 市内・県内市外：NTT東西の通話料金、
県間：NTTコミュニケーションズの通話料金

固定電話の通話料金推移

2001年のマイライン導入前には、電話の激しい料金競争は行われていたものの、マイライン導入直前に主要会社（KDDI・SB）が最遠距離が3分80円と横並びとなり収束以降、現在に至るまで料金改定は行われていない。

通話料金の推移（東京～大阪・昼間）

